

令和4年度（2022年度）

第2回 熊本市公民館運営審議会

審議資料



日時：令和5年(2023年) 3月17日(金) 14時00分～
場所：幸田公民館 ホール

目 次

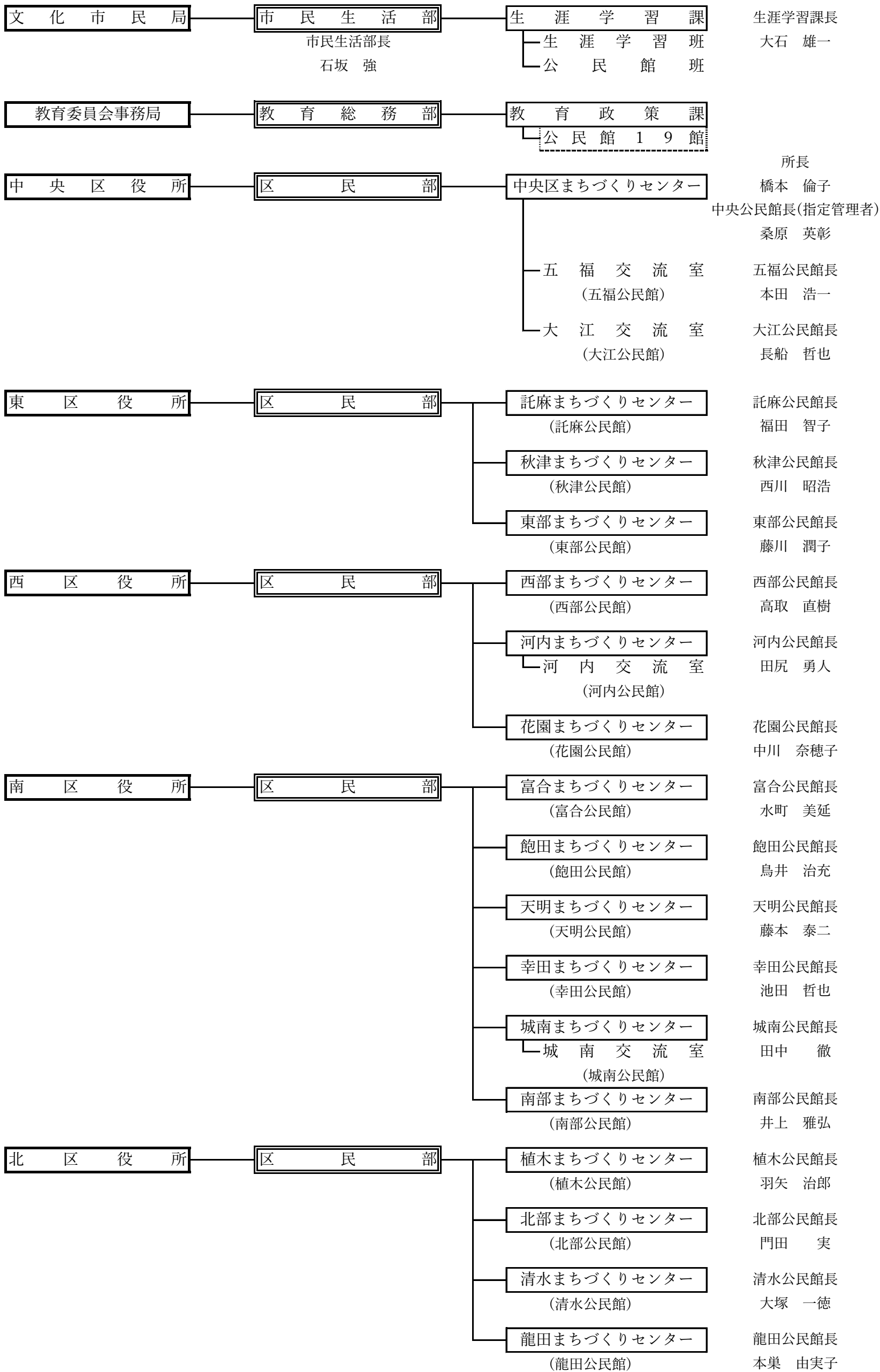
	ページ
熊本市公民館運営審議会委員名簿	1
熊本市公民館関係組織図	2
議事	
令和4年度（2022年度）重点事業の実施状況について	3

熊本市公民館運営審議会委員名簿

区分	氏 名	所属団体・役職等	備 考
学校教育	穴井 佳典	熊本市小学校長会 熊本市立高橋小学校長	
学校教育	安達 寿夫	熊本市中学校長会 熊本市立井芹中学校長	新任
学校教育	東田 明洋	熊本市立幼稚園会 熊本市立一新幼稚園長	新任
社会教育	加藤 貴司	熊本市地域公民館連絡協議会会長	
社会教育	境内 優利	熊本市青少年健全育成連絡協議会 楡木校区青少年健全育成協議会会長	新任
社会教育	中島 敬治	市民公募	
家庭教育	内野 理恵	家庭教育学級長（出水小学校）	
家庭教育	高梨 沙織	熊本市 P T A 協議会常任理事	
家庭教育	福島 貴志	熊本市ボランティア連絡協議会副会長	
家庭教育	山田 はる美	熊本市子ども会育成協議会理事	
学識経験者	香崎 智郁代	九州ルーテル学院大学人文学科准教授	
学識経験者	澤田 道夫	熊本県立大学総合管理学部教授	
学識経験者	藤井 美保	熊本大学大学院教育学研究科 准教授	
家庭教育	稲田 憲生	熊本市民生委員児童委員協議会副会長	R5.2退任

任期：令和３年（２０２１年）６月１日から令和５年（２０２３年）５月３１日まで
※新任の方は令和４年（２０２２年）７月１日から令和５年（２０２３年）５月３１日まで

熊本市公民館関係組織図



議事 令和4年度（2022年度）重点事業の実施状況について

新型コロナウイルスの感染拡大防止に伴う外出自粛等により、市民の生涯学習活動も自粛を余儀なくされており、公設公民館においても各種事業の実施に大きな影響を受けている。感染拡大の影響が長期化する中、生涯学習の機会の提供及び活動の支援を行うため、感染症防止対策を講じるとともに、新しい生活様式に適應した工夫を凝らしつつ、以下の重点事業に取り組む。

令和4年度 重点事業項目

（1）学習機会（公民館講座）の充実

各ライフステージの特徴に応じた学習機会の充実を図るとともに、社会の要請や地域課題に対応した学習機会を提供する。

併せて、積極的に情報発信を行い、多世代交流の場として誰もが気軽に利用できる環境を作る。

- ① 関係課や関係機関（NPO 等）と連携した講座の実施
- ② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施
- ③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施
- ④ 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施

（2）学習成果を生かす環境づくり

生涯学習社会の構築を目指して、ボランティアや地域人材、講師等を養成し、学んだ成果を学校、地域及びまちづくりに生かせる環境を整える。

- ① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供
- ② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充
- ③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

（3）新しい生活様式に適應した事業の展開

新型コロナウイルス感染症拡大を受け、新しい生活様式に適應した事業を展開する。

- ① 公民館オンライン講座（動画配信・双方向型）の実施
- ② デジタルディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差）対策を含めたICT講座の実施
- ③ 新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施

(1) 学習機会(公民館講座)の充実

① 関係課や関係機関(NPO 等)と連携した講座の実施

それぞれの公民館で、関係各課や関係機関と連携し、現代的課題を解決するための取り組みが行われた。学校や地域の団体などとそれぞれの地域の特色を活かした講座が実施され、それぞれの問題を解決していける方法を体験などを通じて学んでいく実践である。

段ボールコンポストでゴミ減量講座 (龍田公民館)

熊本市ではゴミを減量するために、家庭から出る生ごみの堆肥化を推進している。その堆肥化の方法のひとつとして、微生物の力によって生ごみを分解する方法を学習する。参加者の方は、自宅に帰ってからすぐに始められるように、講座の中で段ボールコンポストを準備し、実践することができた。



心のきづき傾聴講座 (中央公民館)

心に寄り添い、言葉に耳を傾け、プラスに評価しながら話を聴くことを学ぶもの。日々の生活、仕事、ボランティア活動など様々な場面で役に立つことを目的に開設。短い時間の中で楽しく傾聴の基本的な知識とスキルをしっかりと学ぶことができ、好評の講座だった。



町の幸福論 (東部公民館)

月出小より、国語「町の幸福論」という教材文で学んだことを基に、「自分たちにできるまちづくりのアイデアをプレゼンにまとめる」という学習を行うための講話依頼があった。それを受け、月出校区のまちづくりについて、地理的特徴、人口の分布、自治会の活動などを月出の地域担当職員が講話を行う。子どもたちのまちづくりに対する提案を聞き、それぞれの立場での率直な感想を交流することができ、大変有意義な時間となった。



② 震災での体験や教訓を生かした防災意識を持続させるための講座の実施

熊本地震から 6 年が経過し、市民の防災意識が低下していく事が懸念されてきており、それを防ぐべく、様々な取り組みがなされた。防災士や気象予報士、管理栄養士、消防署員など、防災に関わる様々な方々と協力の中、日頃から防災意識を高めていくことの大切さを学ぶものである。

あさひばみんなの防災フェスタ (秋津公民館)

今年、3 年ぶりに規模を縮小し、テーマごとに 4 回に分け、「あさひばみんなの防災フェスタ」を開催。参加者の満足度は高かったのも、内容はとてもよかったと思われる。事前の広報で取り組む体験活動や目的などをわかりやすく伝えるとよかった。



防災キャンプ講座（花園公民館）

公民館が災害時に避難所になること、避難するときに必要なものなどについて理解を深めるとともに家族で避難生活を乗り切るための練習を行う。パッククッキングでは、蒸しケーキとカレーライスを作り、予想以上にいろいろな料理ができることに子どもたちばかりでなく保護者も驚いていた。



防災について考える!簡単に作れる防災食（清水公民館）

地震や風水害等の自然災害に対処するための備えや避難方法について考え、簡単に作れる防災食の作り方について学ぶ講座を一般社団法人「よか隊ネット熊本」と連携して実施した。



③ あらゆる人権課題を踏まえ、人権意識の高揚を図る講演会及び講座の実施

様々な人権問題に対する正しい理解と認識を如何に深めていくのか、多くの人たちに啓発していくことを目的に各公民館で実践が行われた。

ボッチャ体験（西部公民館）

本講座では、実際に東京パラリンピックにおいて審判員として活動した新谷さんをお招きし、「ボッチャ」の歴史、ルール等について学ぶもの。当日の参加者は、親子連れ、高齢者、片足の不自由な方など、この講座を開いてよかったと思える、幅広い層の興味を引くことができた。



みんな違ってみんないい!落語人権噺（富合公民館）

今回は、落語を組み合わせることで、分かりやすく、笑って人権について学べるようにと企画。落語は江戸時代からの伝統芸能。当時の世界観や話し方もあり、現在においては気になる表現もある。そのことも含めて噺家から説明していただき、最後まで相手のことを見守っている江戸時代の風潮や人の温かさも語っていただいた。



人権文化セミナー（城南公民館）

「人にやさしく自分にやさしいまちづくり」のテーマのもと、様々な人権問題に対する正しい理解と認識を深めるとともに、お互いの人権を尊重し合えるまちづくりをめざし、年間 5 回の講演会を実施。ハンセン病・性的指向・性自認・インターネット・部落問題における人権課題を取り上げた。



④ 地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座の実施

それぞれの公民館で、地域の自然や文化を活用し、その良さを継続的に引き継いでいくような取り組みがなされた。地元の自治会や各団体の協力のもと、自然や史跡など地域の良さを再発見する取り組みがなされた。

浄行寺de腕輪念珠づくり（南部公民館）

地域固有の自然や文化を活用し、地域への理解を深める講座として企画。南部公民館管下エリアの一つである川尻小学校区は、江戸時代の城下町として栄えた一方、それ以前から仏教伝来の地としても知られる。参加者が生活する郷土に点在するお寺を講座の場所として設定し、「腕輪念珠づくり」の講座を実施した。



寂心さんの樟を囲んで（北部公民館）

「熊本市光のマスタープラン」に基づき、地域資源等の照明演出を支援する「ライトスケープ・キャラバン(夜間景観実証実験)」として県の天然記念物「寂心さんの樟」のライトアップイベントを実施。夜間、ライトアップされ、いつもとは違った神秘的な雰囲気の中、絵本の読み聞かせやギターの演奏、星座観察等を行い、ふるさとの誇りである寂心さんの大樟についての愛着や誇りを更に高めることができた。



河内を歩く⑤～みかん狩りと港の風景～（河内公民館）

「河内町内を歩きながら、地域の自然、名所、歴史等を知ること、健康増進、地域への関心と愛着を育てること」をねらいに、シリーズで実施している講座の第5弾である。11月は、オレンジ色に染まるみかん畑の風景とみかん狩りをメインにし、有明オレンジ園の社長さんにみかんの生長について話をいただいた。



〈成果〉

- ① くらしや地域が直面している課題を解決するために、市の関係各課や関係団体、地域の自治会組織などと連携することで、当該団体の強みを生かした取り組みにつなげる事ができた。
- ② 講座への参加を通して、熊本地震以降、防災への意識を再度高めることができた。また、簡単にできる防災食作りなど、災害に備えた実践的な知識を体験する中で学ぶことができた。
- ③ 部落問題をはじめ様々な人権課題についての正しい理解と人権意識の高揚をめざすため、人権について身近に感じるため様々に工夫した取り組みを実施することができた。毎月の公民館だより等で「じんけんコラム」を掲載し、公民館全体で統一した啓発ができた。
- ④ 実際に現地に出向いて見学したり、味わったりすることで、地域の自然や文化などに対するの興味や関心、愛着心などを高めることができた。

〈課題〉

- ① 講座に適した講師をいかにして確保していくか、講座終了後、参加者が講座での学びを活かしていけるようにいかにサポートしていくのか等の課題が残り、今後、講師リストの作成や継続して取り組みを進めていけるようなサポート体制の充実など、考えていきたい。
- ② 地域の自治会組織や関係諸機関と連携することで、年間に複数回参加できる体制をつくるなど、講座参加者の高まった防災意識を継続して持ち続けていけるための工夫が必要である。
- ③ 人権啓発の視点から、公民館が地域の人権啓発の拠点であることを周知するとともに、誰もが参加しやすい企画や広報などの工夫でさらに充実したものになる。
- ③ これからも継続して取り組めていくように、地域の自然や文化の良さを発信し、多くの人たちに知っていただくなど、講座を地域に根づかせる工夫が必要である。

(2) 学習成果を生かす環境づくり

生涯学習社会の構築を目指して、ボランティアや地域人材、講師等を養成し、学んだ成果を学校、地域及びまちづくりに生かせる環境を整える。

① ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供

飽田公民館、富合公民館、龍田公民館、北部公民館、植木公民館より、おはなし会（読み聞かせ）、認知症予防、老人養護施設でのボランティア活動、史跡・名所ガイド育成の報告があった。

活動内容はもちろんのこと、広報活動や開催時期の工夫、SNS の活用を行い、参加者を増やしていた。課題としては、参加者の固定化、高齢化、法的手続きの煩雑さ等が挙げられていた。

飽田地域読み聞かせボランティア「ハイジの会」（飽田公民館）

学習活動及びボランティア活動支援として、毎月第3土曜日の午前中におはなし会を開催している。参加対象としては、幼児から小学2年生程度までの児童と保護者としており、読み聞かせや手遊び歌、パネルシアターなどを毎回違った題材を選定して実施している。また、年に2回のペースで Zoom 配信による「Zoom おはなし会」も実施している。



「とみ♡ing」（富合公民館）

毎月、第3土曜日午前11時から、とみあい図書館にてボランティアで読み聞かせをしている。たくさんの方々にこの活動を知っていただきたいので、特別に主催講座を行い、市政だより・地域回覧版・ホームページ・広告・掲示等で広報した。また今回は読み聞かせに手遊びを加え、こどもも主体的に活動できる内容も行った。今回を機に、毎月の活動にも来ていただけたらと企画した。



認知症予防（龍田公民館）

自宅でできる認知症を予防するための様々な活動を体験できる講座。頭を使う内容として、簡単なクイズやナンプレ（数字探し）などに取り組んだ。また、体を使う内容として、様々な手遊びやジャンケンなど、楽しい雰囲気の中で手や足を使いながら、身体を動かす活動に取り組んだ。どの内容においても、「この活動は、どんな効果があるのか」について説明し、効果を理解しながら活動した。



「北部 おしゃべり・窓ふき隊」（北部公民館）

地域の老人養護施設に行って、窓ふきをしたり、入所者の方々とお話をしたりする体験を通して、身近なボランティアについての意識を高めることを目的に北部地域のボランティア団体「北部高校生ボランティアサークルわいわいHVC」と北部中学校JRC部と一般参加者約20人で月に1回実施している。

コロナ禍ということもあり、施設内での利用者とのおしゃべりはできないので、施設の外側からの窓ふきと草取りを中心に活動している。



植木の史跡・名所の歴史を学べ（ボランティア養成講座）（植木公民館）

植木の史跡・名所についての歴史的学びを通して、植木の良さを知ってもらう。また、その学んだことをもとに、田原坂ガイド等のボランティア活動を行うことができる人を養成する。後継者育成までは行っていないのが現状である。植木町の貴重な史跡・名所を後世につなげていくためにも、継続した講座開設での人材育成が望まれる。



② 公民館、学校、地域等での学びを生かす活動の拡充

五福公民館、東部公民館、西部公民館、花園公民館、河内公民館、南部公民館、幸田公民館、富合公民館、城南公民館、清水公民館、植木公民館より、フットパスイベント、こどもチャレンジ公民館、よろず相談、調理、楽器演奏での交流、ふれあいフェスティバル、小物づくり、0円マーケット、生け花等の報告があった。

コロナ禍で発表会が3年ぶりにできて嬉しかったことや大学生や講座生と小学生の交流の場ができたこと、自主的・自発的な取組ができる団体が出てきたこと等が良かったところとして挙げられていた。

おでかけ公民館フットパス講座（五福公民館）

五福小学校児童は、生活科及び総合的な学習の時間等で地域学習を行っている。地域の方々との関わりからコミュニケーションや地域の持つ力や魅力等を学び、学年ごとにまとめる活動を行っている。5年生は、それを表現する活動としてフットパスでのガイドを通した発信と出会った。自分たちで、フットパスでおもてなしをするためのノウハウを専門家から学んだ。こどもたちが持っているこれまでの学習の積み上げを活用した表現方法について、公民館と一緒にフットパスイベントを行うこととなった。



子どもチャレンジ公民館（幸田公民館・清水公民館）

幸田公民館の南区子どもチャレンジ公民館事業では、「秋まつりをしよう～アナログ体験～」を、プランナー企画によるイベントとして開催した。今年度プランナーは、4年生2人、5年生2人の計4人なので、1人1人が、やってみたい企画を考え、準備し①イラスト大会、②箸を使っの空中テッシュつかみ、③3枚の折り紙で回るコマを作ろう、④バルーンアートの4ブースを開催した。コロナ禍ということで、プランナー応募は4名であったが、学校や公民館等で学んだことを、地域の児童に楽しんでもらう為に、どんな企画がよいのか、よく考え、自宅でも賞品を準備してきたりと、意欲的に取り組んでいた。



清水公民館の北区子どもチャレンジ公民館事業では、「みんなでわいわい夏祭り」を実施した。今年度のプランナーは、4つの小学校から集まった4年生2人、5年生1人、6年生1人の計4人で、熊本大学メイクフレンズの学生15人の支援を得て、プランナーのアイデアを膨らませながらの計画、準備、リハーサルを重ねての実施となった。夏祭りは、定員20人を大きく上回る応募があった。活動中は笑顔があふれ、参加者もプランナーも満足感をもって終えることができた。



大学生企画講座（東部公民館・秋津公民館）

熊本大学メイクフレンズ企画のもと、「わくわくミニゲーム大会～集めたアイテムでメリーツリーツクリマス～」を実施した。内容としては、クリスマスツリーの飾りを集めるゲームを行い、チームごとにクリスマスツリーを完成させていくゲーム大会で、参加者は小学4、5年生11名であった。講座の運営をする大学生は24名であった。大学生は本番に向け、予行練習をし、そこでの反省を基に、修正した状態で本番を迎えていた。そのため、講座の流れもスムーズに進み、内容もとても充実したものとなっていた。大学生のアイデアが随所に光る構成で、初めて会った小学生同士でも親睦を深めることができ、楽しそうな姿がたくさん見られた。



PC・スマホよろず相談（西部公民館）

以前から活動していた「西部公民館ITボランティア」だが、活動する機会が減ったため、講座内容をリニューアルし、「PC・スマホよろず相談」講座を今年度よりスタートした。月に1回定期的に行うことで、地域の方に浸透すると同時にボランティアの活動を定期的に行うことをねらっている。参加者はあらかじめ質問事項を決めておき、解決したら帰っていいということで、途中入室・途中退室を可能としている。



事前申し込み不要であるため、当日にならないとどのような質問があるのか、来場者数がわからないなど、準備する側は大変であるが、パソコンへの質問はボランティア3人、スマホへの質問は社会教育主事と役割を分けているため、混乱は回避できている。今後は地域の学生・高校生等と連携することで、スマホへの質問に対するボランティアを増やしたいと考えている。

家庭教育学級（花園公民館・城南公民館）

花園公民館では、「メスティン（ハンドル付き飯盒）」を使用しての調理活動を実施した。参加者は4家族（計大人6名 こども6名）。前年度主催講座で行った防災クッキングを基に、家庭教育学級生が講師は立てずに自分で企画して、家庭教育学級生を対象に参加を募って、実施した。家庭教育学級生自身がが昨年学んだことを生かして、新たに参加した保護者に作り方を教えることができた。調理と同時に、防災の心構え等についても考えた。



「講師がいて、受講者は与えられたり、消費したりして学ぶもの」というステレオタイプの講座の形から脱却して自分たちで学び合うことができるということに気づくことができた。新しい講座の形を創り出す可能性を感じた。参加者が家族みんなで「メスティン」での調理を楽しむことができていてよかった。

城南公民館では、リユース・リデュースを目的とした「0円マーケット」を実施した。SDGsについて学習したことを生かし、各家庭から使わなくなったものを持ち寄って、マーケットを開催し、リユース・リデュースの広がりを目指した。欲しいものが見つかり、持ち帰る際、取り組んでいる「リユース・リデュース」や他のSDGsに関することなどを書いてもらい掲示した。学習した内容を生かしたイベントを学級生自ら企画して実施し、商業施設内での実施だったためお客さんも多く来られ、学級の存在・取り組みなども地域みなさんに理解してもらうことができた。学級生の達成感や自信につながり、学んだことを生かすことの大切さに気づくことができた。



ふれあいフェスティバル（南部公民館）

平成29年から開催している南区6館合同企画「南区ふれあいフェスティバル」を令和元年以来、3年ぶりに開催した。この発表会は、公民館を利用して活動されている団体が出演する舞台であり、当館から4団体「サザンクロス・オカリナ」、「健康リフレッシュ」、「南部民舞しらゆり会」、「南部公民館フラダンス」が練習の成果を披露した。「コロナ禍の中でも講座を継続されてきたことが披露できた」と出演者の方々は、あふれる笑顔で満足されていた。また、学びを止めなかったから発表が充実感を生んだとの感想が出された。



講座の学びを生かす（河内公民館・富合公民館・植木公民館）

河内公民館・芳野コミセン・河内コミセン・河内老人福祉センター・各事業所をオンラインでつなぎ、「河内大正琴」講座の皆様がふれあいフェスティバルで発表された動画の視聴や河内在住ダンス講師の指導で健康体操を遠隔で実施した。河内大正琴の視聴は大変好評で、発表に合わせて手拍子をしたり、口ずさんだりと楽しんでいた。もちろん、発表者の河内大正琴の皆さんも新たな形で多くの方々に自分たちの発表を見てもらえることを大変喜んでおられた。別の会では公民館紹介動画や動画配信の講座も視聴している。これからも、地域の方々の学びの還元をオンラインでも実施していく。



富合公民館では、主催講座で通年活動されている「布絵本づくり」の方々が、地域の小学生のため、「フェルトでマスコットづくり」講座を行った。小学校5年生で家庭科が始まり、裁縫セットを買って、初めて玉止め、玉結び等行っている子どもたちに、裁縫の楽しさを伝えるための講座。夏休みに小学生5・6年生を対象に子どもたちに裁縫の基礎・基本を教えた後、フェルトでマスコット作りを行った。公民館で学んでいる裁縫の技を生かし、小学5・6年生に教え、還元することで学びを生かす機会になるとともに、地域の高齢者と若い参加者が講座を通して知り合い、触れ合う場となった。



植木公民館では、自主講座「池坊華道」の講師の先生と講座生を講師とした主催講座「お月のお花を生けよう こども生け花教室」を実施した。自主講座での学びを生かす場面があることは、自尊感情を高めるとともに生涯学習を今後も続けたいという意欲につながるはずである。この主催講座のように、まずは、子ども向けの講座を今後増やしていく。



③ 地域の学習グループやボランティア団体の活動支援及び地域コミュニティ形成の支援

秋津公民館、飽田公民館、天明公民館、富合公民館、北部公民館より、ミニイベント、文化祭、3B 体操、おはなし会老人養護施設でのボランティア活動の報告があった。

市民からの自主的な声で発足した取組が多く、活動内容も年々充実していた。しかし、長く活動に取り組んでいただくとともに、地域への活性化につなげるための改善とさらなる工夫が必要である。

子育て支援（秋津公民館）

小学生以下の子どもと保護者を対象にしたミニイベントを2カ月に1回実施（12月までに4回実施済み。2月にも予定）。内容は、季節の行事を題材にした物づくりやゲームなど。例えば、4回目の10月は「親子で変身!『ドキドキハロウィン』」、2月の予定は「親子でお買い物『桃色ひなまつり』」。

「子育てに関するボランティア活動をしたい」（同じ中学校卒業の4人で「かもみーる」というグループを作っている）との相談があった。具体的な活動内容は決まっていなかったが、意欲にあふれた若い世代の思いを具現化したいと思い、どのようなことをしたいか、対象は、活動場所は、日時は・・・など複数回にわたり聞き取りながら一緒に企画を作る支援を行った。「保護者もほっと安心できる時間を」とアンケート結果をもとに改善し、回を追うごとに企画や運営などが充実してきている。公民館としても、公民館だよりやLINEでの広報の支援も行っているが、本人たちもSNSで活動の様子を発信するなど自主的な活動ができています。



文化祭（天明公民館）

天明文化協会と連携し「天明文化祭」を開催。地域で様々な文化活動をされている方々をはじめ、天明公民館の自主講座の活動をされている方々などの発表の場となる催しを実施。また、外部からの講演としてアマチュア落語家の方を招き、地域の方々には普段見ることができない落語の演目を生で観覧していただいた。



3B 体操（富合公民館）

富合公民館の自主講座「3B 体操」の講師の方が、運動が苦手な方・初めての方でもできる3B 体操をたくさんの方々に知って欲しい、実際に体験してみなさも健康になって欲しいという思いから、市民企画として3B 体操を主催講座で行った。自主講座で学んだことを還元し、3B 体操講座に参加していただき、体験後は講師たちの3B 体操講座の紹介を行った。参加生が今後も参加することで、コミュニティ形成支援に繋がればとも思い、企画した。



○飽田公民館、北部公民館の取組は、前記の「①ボランティアや地域人材等の養成講座の実施及び活動機会の情報提供」で紹介済み。

成果と今後の課題

〈成果〉

- ①くらしや地域の直面している課題を解決するために、市の関係各課や関係団体、地域の自治会組織などと連携することで、連携した団体の強みを生かした取り組みにつなげる事ができた。
- ②講座への参加を通して、熊本地震以降、防災への意識を再度高めることができた。また、簡単にできる防災食など、災害に備えた実践的な知識を体験する中で学ぶことができた。
- ③ コンサートや落語、セミナー、パラスポーツ(ボッチャ)体験など、工夫した取り組みを通して、様々な人権課題についての正しい理解と認識を持つことができた。
- ④実際に現地に出向いての見学や味わう等の体験をすることで、地域の自然や文化などに対するの興味や関心、愛着心などを高めることができた。

〈課題〉

- ①後継者をどう育成するか議論と積極的な取り組み（館区の方の関心を高める取組）と広報活動が必要である。
- ②世代間交流のための具体的な取り組み（若い世代の関心を高める工夫）が必要である。
- ③誰もが参加しやすい企画（時間と場所の工夫）や広報の工夫が必要である。
- ④講座を地域に根づかせる工夫（企業・地域と連携して、多様な視点）が必要である。

(3) 新しい生活様式に適應した事業

① 公民館オンライン講座(動画配信・双方向型)の実施

「みんなで考えるSDG's」(大江公民館)

対面での参加者とオンライン参加者で募集した。「みんなで考えるSDGs」という演題で、今自分にできることを考え、できることから実践しようというテーマで講演会を実施した。



「読書感想文なんて怖くない!」(東部公民館)

・小学4年生から中学3年生を対象に読書感想文講座を実施した。講師からの「しつもん」に答えながら、本を見ていだけで「読書感想文」が書けるワークショップ形式の講座を行った。当日は小学4年~6年8名がオンラインで参加した。
・事前にZOOMのIDとパスワード、及びワークシートを郵送にて参加者に配付し、開始時刻に10分前から参加するようにお願いした。講師からの呼びかけに個別に返事をするなど、双方向のやり取りができた。



「アンガーマネジメント~怒りをコントロールして笑顔の子育て(生活)~」(秋津公民館)

講師に堀川 香代さん(公認心理師)をお招きし、家庭教育学級合同講演会(兼ふれあい教養講演会)を実施した。会場とオンライン(ZOOM)のハイブリットで実施した。



「キンパ巻きを作ろう」~河内の海苔ができるまで(動画配信)~(河内公民館)

「キンパ巻きを作ろう~河内の海苔ができるまで~(動画配信)」
第1部は河内の海苔ができて出荷されるまでの様子を4月から月を追って紹介し、第2部は海苔を使ったキンパ巻き作りの動画を作成し、配信している。



「Zoomお話し会」(飽田公民館)

飽田地域読み聞かせの会「ハイジの会」の皆さんに依頼し、6月と3月にZoomお話し会をライブで配信した。内容は、童話の読み聞かせやパネルシアター・手遊び歌などで、約40分の配信となっている。広報は、市政だよりや地域保育園、幼稚園にチラシを配り、電子申請によって申し込まれた方に配信。前日までにZoomのIDとパスコードをお知らせして実施する。



「源為朝伝説!ためもの弓」(富合公民館)

雁回山の名前の由来になった源為朝を知っていただきたいと思い講座を計画。主催講座の「布絵本づくり」の皆さんが作った源為朝の布絵本を主催講座読み聞かせボランティアをしていただいている「とみ♡ing」の皆さんに朗読をしていただいた。源為朝をたくさんの方に知っていただきたいと思い、デジタルアーカイブ



化し、誰もが、いつでも見られる YouTube 動画講座を作成した。	
「健活教室」（北部公民館） 熊本市北部公民館をメイン会場として菊南病院または熊本機能病院から、北部東コミュニティーセンター、川上老人福祉センター、小規模多機能ホーム「きなっせ」に Zoom で配信	

② デジタルディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差）対策を含めた ICT 講座の実施

「アンドロイド講座」（中央公民館） スマートフォンの「アンドロイド機種」の基礎的操作を学ぶ初心者入門講座として、3 回シリーズで開設した。スマホを日常でどのように活用するのか、実践的な使い方をアンドロイド機種の端末を触れながら楽しんで学べる講座となった。	
「シニア向けスマホ講座」（託麻公民館） シニア向けスマホ講座は、以前より地域の方から要望があった。今回は、60歳以上、初心者の方を対象に講座を開設した。内容は、電源の入れ方、切り方、アイコンの見方、タップ、スワイプなど、基本的なことから始めていった。多人数で一斉に説明しても理解しにくいところもあるので、6名の少人数、講師2人での講座とした。	
「スマホ初級アンドロイド講座」（西部公民館） 従来の携帯電話からスマートフォンに乗り換えたものの、何に使えるのか、どうやって使うのかといった基礎的な部分から戸惑いのある高齢者を対象に「スマホ初級（アンドロイド）」講座を行うもの。高齢者に限定はしていないが、開催期日を平日の午前中に設定することで高齢者の受講を促すものとしている。	
「PC スマホ相談室」（花園公民館） 電話でPCの使い方等の相談内容を聞いておき、調べたことを受講者に教える。学んだことは受講者同士で教え合った。 同時に、質問をまとめて「PCの使い方」フリーペーパーを作成して、誰もがホームページから閲覧できるようにしたり、小冊子にして手に取ったりできるようにしたりする。	
「デジタルディバイド解消講座」①スマホ体験講座・②スマホ活用講座（南部公民館） 南区 6 館 合同企画「デジタルディバイド解消講座」第 1 弾「スマホ体験講座」に引き続く第 2 弾「スマホ活用講座」（南部公民館は、Android 端末限定）。 自身のスマホを持っているけれども十分に使いこなせていないという方々を対象に、メールや写真の活用方法をはじめ、地図アプリの操作方法を学ぶ。指導者は講師 2 名に加えて、地元大学生 4 人に補助講師として依頼して実施。	

「やさしいスマホ講座」～体験版・活用版～（幸田公民館）

南区では、第1弾、第2弾のスマホ体験講座を「やさしいスマホ講座（体験版）」「やさしいスマホ講座（活用版）」開いた。文字入力・簡単なアプリケーションの使い方等、初心者向けの講座で、地元の大学生が講師と一緒に教えてくれた。スマートフォンの便利さ・活用方法を学ぶきっかけになった。大学生はテーブルを巡回して、それぞれの質問に答えて疑問を解決していた。



「やさしいスマホ講座」（富合公民館）

デジタルディバイド解消のための「やさしいスマホ講座」として、南区6館合同で、まちづくり班、ささえりあと連携し、スマートフォン講座を2回行った。1回目はスマートフォン貸し出し形式で、2回目は参加者自身のスマートフォンを使ってのスマートフォン講座を行った。また大学生が支援として参加し、分からないで困っている参加者への支援を行った。



「スマホ講座」（城南公民館）

「スマホを持っていない、これから持とうとしている方」が対象の講座では、電源の入れ方から電話のかけ方など、基本的初歩的な操作方法を学んだ。「スマホの便利な機能を使いたいという方が対象」の講座では、カメラ機能や地図アプリなど、知っておくと便利な機能を学んだ。また細かい個人的な質問等には講師のほか、補助講師として参加した学生が担当した。



「はじめてのパソコン」講座（龍田公民館）

パソコン初心者の方を対象にした講座。パソコンの電源の入れ方、終了の仕方などパソコンの基本的な操作から、ソフトの起動、ワードの操作について学んだ。講師が作成したテキストには、操作の方法について写真入りで詳しく説明がしてあり、講座生はテキストを追いながら、講師の説明を聴いていた。個別の相談に対応できるよう、講座生を少人数の5人に設定した。講師はテーブルを巡回して、それぞれの質問に答えて疑問を解決していた。



「Excel, Word, iPhone, iPad 講座」「Word で年賀状作り」

「はじめてのアンドロイドスマホ」（清水公民館）

パソコンやスマートフォンを所持しているものの十分に使いこなすことができていない初心者の方々を対象とした講座をシリーズで開催した。基本的な操作方法から発展、応用、便利な使い方まで取り扱った。できるかぎり個別の質問に答えることができるよう、講師2名で指導にあたっていた。



「LINE の紹介と活用講座」（植木公民館）

スマホを初めて使うという方向けの、基本操作をマスターし、緊急時に連絡等が取れるスキルを身に付けていただくための講座。



③新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施

「新型コロナウイルス感染症とワクチン」（五福公民館）

KM バイオロジクス株式会社の広報課長 藤田洋一氏から、新型コロナウイルス感染症の 12 月初旬時点での現状と講師の会社でのワクチン製造についての現状、また、今後のワクチンの選択や接種の考え方についてお話をいただいた。



「新型コロナウイルス感染症の今後の対策と、国内ワクチン開発の現状」（天明公民館）

新型コロナウイルスに対するワクチンが海外で開発され、日本国内ではこの3年間で4回目の接種が進められている。その影響からか、重傷者数が全国でも激減している。ワクチン開発は国内でも進められ、県内の企業である「KMバイオロジクス」が国産ワクチンを生産する予定であり、開発の現状について学ぶ。



※ 成果と今後の課題 ※

①公民館オンライン講座（動画配信・双方向型）の実施

＜成 果＞・オンライン講座は、感染拡大防止には効果的だった。

- ・会場に出向くことが難しい方にも、学習に参加できた。
- ・学びを保障することにつながる講座である。

＜課 題＞・運営側のオンライン講座を実施するスキルが必要。（Zoom の操作法など）

- ・「運営側が一人」ではオンライン講座の運営は難しい。複数のスタッフで対応する必要がある。
- ・おはなし会など、著作物を使用する場合は、配慮が必要になる。
- ・Youtube の配信は、一方通行で、受講者の反応がわかりにくい。

② デジタルディバイド（インターネットやパソコン等の情報通信技術を利用できる人と利用できない人との間に生じる格差）対策を含めた ICT 講座の実施

＜成 果＞・これからスマートフォンにのりかえる方にとって、とてもニーズを感じる。

- ・受講者が、お互いに教えあう学習形態は、とても効果があった。
- ・地域の大学生が、講師役として協力してくれたのは、地域との交流につながった。

＜課 題＞・「初心者」として募集しても、受講生の経験に大きな相違がある場合があった。

- ・「使うことが目的」の講座から、「防災に役立つ使い方」や「動画をみる方法」など、目的に応じた使い方の講座がこれからは必要ではないだろうか。

③新型コロナウイルス感染症を学ぶ講座の実施

＜成 果＞・講座に参加することで、ワクチン接種について判断する情報を得ることができた。

- ・新型コロナウイルスに対して、最新の正しい情報を得ることができた。
- ・「ワクチン接種が義務ではなく、任意である」ことや、「接種しない方への誹謗中傷は、決してあってはならないこと」の理解につながった。

＜課 題＞・申込者の数が伸び悩んだ。多世代に向け、効果的な広報の工夫が必要だった。

- ・「新型コロナウイルスについて正しく学ぶことの大切さ」を何かの方法で発信する必要性を感じた。

